

●復刻の辞

韓国併合の直前、一九一〇年六月、日本政府は韓国政府から警察権を奪い、韓国駐
箚憲兵隊が韓国人民を支配・統合する「武断政治」を開始する。この憲兵隊による
植民地統治の方式は、その後の日本の植民地各地に輸出され、原型となるに至る。
防衛庁防衛研究所図書館所蔵の「朝鮮憲兵の起源及び沿革概要」「朝鮮憲兵隊歴史」
は、この間の資料の空白を埋める極めて重要な資料である。この両草稿は、六、三〇
〇頁に及ぶ膨大な著作であるが、4面付方式により復刻。

不二出版

朝鮮憲兵隊歴史

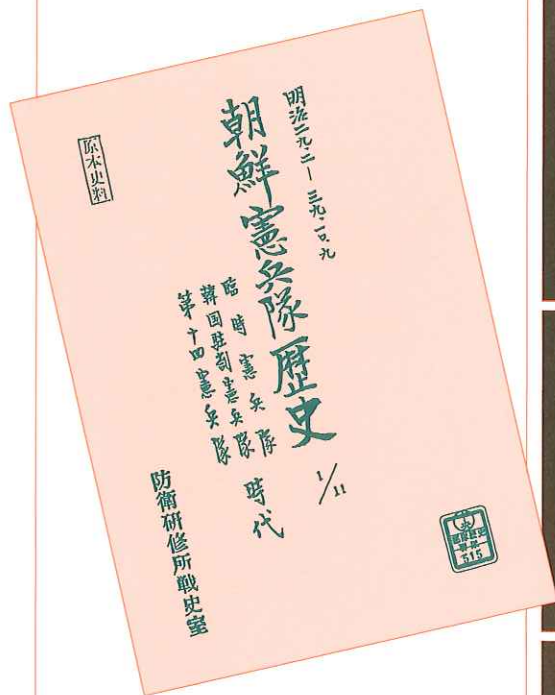
●体裁——A4判・上製本・総1、580頁

●内容——「朝鮮憲兵の起源及び沿革概要」

「朝鮮憲兵隊歴史」(明治29年2月～昭和19年7月)

●解説——松田利彦・国際日本文化研究センター助教

●定価——全6巻 揃本体価格1,000,000円十税



日本の植民地統治の原型を 朝鮮憲兵隊にみる

海野福寿・明治大学文学部教授

防衛庁防衛研究所図書館所蔵の「朝鮮憲兵隊歴史」と「朝鮮憲兵の起源及び沿革概要」が、朝鮮憲兵隊研究の第一人者である松田利彦氏により編集され、適切な解説を付した資料集として刊行されることになった。

朝鮮憲兵隊と言えば、誰しも一九一〇―一九一九年の憲兵警察制度を想起するだろう。日本の朝鮮植民地統治の「武断政治」期を象徴する存在だった。本来、軍事警察を専掌する任務の憲兵が、その範囲を越えて普通警察領域に介入し、ついには他国(韓国)の警察権を掌握するのは異常なことで、近代国家の法理にも反する。それを実行したのは、韓国駐劄軍参謀長で初代韓国駐劄憲兵隊司令官となる明石元二郎少将、寺内正毅陸相兼統監、田中義一陸軍大佐・陸軍省軍事課長であると推定される。彼らは警察官僚や法学者の反対をよそに、抗日義兵闘争の鎮圧と韓国併合時の治安維持を最大限に強調することによって日本政府の承認を得、併合直前一九一〇年六月、韓国政府から警察事務の委託を受ける形で警察権を奪い、韓国駐劄憲兵隊が指揮する憲警統一をなし遂げた。

併合後、約八千人の兵員を擁する朝鮮駐劄憲兵隊は、抗日民族運動に対する弾圧活動はもとより、一般地方行政・司法事務に関与し、さながら戒厳令下の民衆統制状況をつくり上げた。しかし三・一独立運動を契機に、一九一九年八月、朝鮮における憲兵警察制度は廃止されることになるが、軍隊による警察権掌握は、形を変えて大陸に輸出された。関東州駐劄憲兵の警察官兼務(一九一七―一九一九年)、「満州国」の軍警統合(一九三七―四三年)などである。そうだとすれば、軍による植民地治安機構の一元的掌握は、日本の植民地統治の常套手段であり、その原型が朝鮮憲兵隊であった、と言うことができるのではなからうか。

本書が朝鮮史研究者のみならず、日本の対アジア侵略史に関心をもつ研究者に広く利用されることを期待するゆえんである。

日本の植民地支配の

実態を解明する資料

水野直樹・京都大学人文科学研究所教授

これまで研究者にもほとんど知られていなかった『朝鮮憲兵隊歴史』が復刻され、ひろく利用されるようになるのは、よろこばしいことである。

本来軍事警察である憲兵が文官警察官を指揮して普通警察の事務をも行なうという憲兵警察制度が、日本の朝鮮植民地支配の初期(「武断政治」期)に実施されたことは、高等学校の教科書にも記述されるくらい、歴史の常識に属するといえるが、その実態の解明はそれほど進んでいない。憲兵警察に関する資料が乏しいことが主な理由であろう。

今回復刻刊行される『朝鮮憲兵隊歴史』は、そのような資料の空白を埋めるという意味でも、また「韓国併合」前後の朝鮮社会の状況(「民情」)が詳細に記録されている点でも、きわめて重要な資料である。

朝鮮における憲兵の役割は、治安維持の機能に限られていなかった。一般行政事務や司法事務にも深く関わっていた。憲兵警察制度が「武断政治」の根幹とされるゆえんである。したがって、治安問題のみならず当該時期の各方面における支配の実態を具体的に明らかにするためにも、本書は有益な資料となるものである。

三・一独立運動後、憲兵警察制度は普通警察制度に改められ、憲兵が普通警察や行政の事務に関わることは機構上はなくなった。そのため『朝鮮憲兵隊歴史』においても、一九二〇年代以降の記述は簡略になっている。一九三〇年代半ばから憲兵隊は再び活動を活発にしたが、それについても従来ほとんど知られることがなかった。また、本書から、「皇民化」政策・戦時動員政策に憲兵隊がいかなる関わりをもったかを明らかにする手がかりを得ることができよう。

『朝鮮憲兵隊歴史』は、「併合」以前の時期を含めて、日本の植民地支配の実態とその歴史的意味を考察するために不可欠の資料となるものと信じる。

大正十三年一月

朝鮮憲兵ノ起源及沿革概要

朝鮮憲兵隊司令部調

我朝鮮憲兵隊ノ創設ハ明治二十九年一月二十五日臨時憲兵隊ノ編制令セラレ臨時電信提理ノ指揮下ニ屬シ京城釜山間軍用電信ノ守備ニ任セラレタルニ起源スルモノナリ
時恰モ日清戦争ノ終結セシ翌年ニシテ朝鮮ニ於ケル我カ勢力ハ三國干渉ニ由リ露國ニ及ハスト思ハシムルニ及ンテ朝鮮王室ハ露國ノ後援ニ依頼シ我カ勢力ノ排斥ヲ企テ政府親日派ノ政治家ハ漸ヲ追テ貶黜セラレ倭臣権力ヲ擅ニシテ官紀ノ紊亂其ノ極ニ達シ官職ハ金錢ヲ以テ贖買セラレ官吏ハ收斂請求之レ事トシ警察制度ノ如キモ範ヲ我國ニ取り我カ警視廳ノ警視ヲ招聘シ顧問トナシ四百年來ノ不完全ナル制度ヲ文明的制度

ニ改メタリシモ暫クニシテ顧問ヲ解キ其ノ改革ハ遂ニ形式ニ止マリ依然刑罰ハ黃白ヲ以テ加免輕重セラレ火賊隨所ニ起ツテ良民ヲ劫掠シ草賊白晝ニ横行シ人民ハ警察ノ怖ルヘキヲ知ツテ信賴スヘキヲ知ラズ其ノ之レ有ルハ却テ無ニ若カサルノ状態タリ
此ノ時ニ當リ我帝國ヨリ派遣セラレテ此ノ國ニ駐劄スル憲兵ハ其ノ任務軍用電信ノ守備ニ在リト雖元ヨリ警察ノ機關ニシテ人民ノ保護ヲ以テ本科性能ノ一部ト爲スモノナレハ其ノ一舉一動ハ直ニ我カ帝國ノ威信ニ關シ其ノ責任ハ眞ニ重大ナリキ當時我カ憲兵ハ本部及三區隊ト爲シ僅ニ隊長以下百三十三名ナリ其ノ主ナル任務ハ前

述ノ如シト雖火賊ノ出現スル事アレハ直ニ之ヲ討伐シ地方ノ安寧ヲ維持シ爲ニ駐劄地方ニ其ノ災害ノ跡ヲ絶チ加之我カ憲兵ノ良民ニ對スル懇切丁寧ノ態度ハ汎ク衆庶ヲシテ其ノ德ニ服セシムルニ至レリ朝鮮ハ明治三十年十月國號ヲ大韓國ト改メ王ヲ皇帝ト稱スルニ至レリ我カ憲兵隊ニ於テハ一部ノ編制改正ノ外數次ノ隊長時代ヲ經テ明治三十六年十二月一日韓國駐劄憲兵隊ト改稱シ電信提理ノ指揮ヲ離レテ韓國駐劄軍司令官ノ指揮下ニ直屬シ一部ノ編制ヲ改正セリ
明治三十六年十二月八日日露ノ國交愈切迫シテ兩國互ニ韓國ニ對スル勢力ヲ争ヒ戰備須臾モ怠リ無キノ時我カ駐劄憲兵隊ハ服務細則ヲ規定シ



朴慶植 編

在日朝鮮人関係資料集成〈戦後編〉 全10巻

小林知子・宮本正明・長沢 秀・金 栄・高柳俊男 解題

A4判・上製・函入・総約3,500頁

揃定価280,000円＋税

'00年6月～'01年2月配本完結（編集復刻版）

朴慶植氏の『在日朝鮮人関係資料集成』（三二書房刊）を刊行後、「戦後編」の資料を収集し、構成・目次まで作成されていた。氏の突然の死（九八年二月）によって中断したこの作業は、在日朝鮮人運動史研究会が引きつぎ、遺族の了解を得て全一〇巻で刊行することとなった。①②在日朝鮮人連盟関係、③在日本大韓民国居留民団関係、④在日朝鮮統一民主戦線関係、⑤在日朝鮮人職業名鑑・文化年鑑、⑥教科書・教育関係雑誌、⑦都立朝鮮人学校関係、⑧⑨⑩朝鮮人刊行雑誌・新聞。収録資料はすべて朴先生秘蔵のもの。解放直後のこれまで見ることができなかった貴重資料多数を含む。

朝鮮総督府 刊

朝鮮総督府 帝国議会説明資料 全17巻

A4判・上製・総5,240頁

揃定価535,000円＋税

'94年4月～'98年6月配本完結（復刻版）

朝鮮総督府が、帝国議会提出のため作成した『帝国議会説明資料』は、現在その大部分が散佚又は焼却され、その全容を把握することは、さえないに近い。弊社では内外の研究者・各機関の協力を得て、現在収集可能なものを全てを網羅し、復刻刊行した。その分量は、二一、〇〇〇頁を超えるため、四面付方式により復刻。大正六年から昭和二〇年までの植民地朝鮮の「治安状況」を中心とする民衆の動向など、植民地支配の全分野を含む、近現代史研究の基本資料である。

●推薦 海野福寿・朴慶植・水野直樹・宮田節子

朝鮮総督府警務局 編

最近に於ける朝鮮治安状況 昭和11年5月

水野直樹 解題

A5判・上製・函入・442頁

定価7,000円＋税

'86年3月刊（復刻版）

昭和二年・五年版に次ぐ報告書。とくに中国東北地方でのバルチザン運動の記録は貴重な資料である。（主要目次）治安状況（社会主義運動、民族運動、政治運動、学生の思想傾向、宗教及同類団体）の状況、衡平運動、労働争議、小作争議、集会及結社の取締状況、時局の鮮内治安に及ぼしたる影響）／朝鮮人労働者内地渡航取締状況／内地在住朝鮮人の状況／国境方面に於ける治安の状況（鴨緑江方面、豆満江方面、匪賊鮮内侵入事件）／在外不逞鮮人の状況／満洲及西伯利亚方面に於ける朝鮮人の状況／昭和十年以降に於ける重要事件

姜在彦 編

朝鮮における日窒コンツェルン

日本の典型的新興財閥で電気化学工業の代表的企業である日本窒素 野口コンツェルンの朝鮮進出と経営実態についての詳細な研究。それをめぐる朝鮮の農民・労働者の抵抗運動をも解明。

●A5判・上製・366頁・定価5,000円＋税／'85年10月刊

河合和男・金早雪・羽鳥敬彦・松永 達 共著

国策会社・東拓の研究

一九〇八年、朝鮮に設立された東拓（東洋殖産株式会社）の多面的な事業活動を体系的に把握し、それを通じて、国策会社・東拓の全体像や歴史的意義に迫ろうとした共同研究書。

●A5判・上製・350頁・定価7,800円＋税／'00年1月刊

第一章 臨時憲兵隊概説

最初我憲兵隊ノ朝鮮ニ設置ヲ見タルハ實ニ明治二十九年二月ニシテ京城、釜山間ノ我電信線ノ守備、警護ヲ任務トシ臨時派遣ノ性質ニ屬ス
抑モ此ノ電信線ハ明治二十七八年戰役ノ初メニ當リ帝國特命全權公使(大島圭次)ヨリ朝鮮國政府ニ向ヒ(一)日本政府ハ京釜間ニ

軍用電信線ヲ架設スヘシ(二)朝鮮政府ハ濟物浦(現在ノ仁川港)條約ニ從ヒ日本軍隊ノ爲ニ兵營ヲ建設スヘシ(三)在牙山ノ清兵ハ速ニ撤退セシムヘシ(四)清韓水陸貿易章程ヲ初メ朝鮮ノ獨立ニ抵觸スル清韓間ノ諸條約ハ一切廢棄スヘシトノ照會アリ同年七月二十三日該國政府ノ我政府要求ノ全部ヲ承諾シタル結果其ノ第一項ヨリ帝國ノ軍用通信機関トシテ架設ヲ見タリト同年八月

二十日帝國政府代表者(大島圭次)ト朝鮮國外務大臣(金九植)トノ間ニ合同暫定條約ヲ締結スルニ至リ其第三項ニ基キ當分ニ存置スルコトヲ約定スルコトトナリタリ其ノ全文左ノ如シ

合同暫定條款

大日本兩國政府ハ日本曆明治二十七年七月二十三日漢城ニ於テ兩國大朝鮮兩國政府ハ朝鮮曆同治十三年六月二十一日漢城ニ於テ兩國兵ノ偶爾衝突ヲ與シタル事件ヲ治メ茲將未朝鮮國ノ自由獨立ヲ鞏固ニシ且彼此ノ貿易ヲ獎勵シ以テ益々兩國ノ親密ヲ圖ラムカ爲

茲ニ合同條款ヲ暫定スルコト如左

一、此度日本國政府ハ朝鮮國政府ニ於テ内政ヲ改革セムコトヲ誓

望シ朝鮮政府亦其ノ急務タルヲ知覺シ其ノ勸告ニ從ヒ勵行スヘキ各件ハ順序ヲ追テ施行スヘキコトヲ保證ス

一、内政改革ノ件目トシテ京釜兩地及京仁兩地間ニ建設スヘキ鐵道一事ハ朝鮮政府ニ於テ其ノ財政未タ裕ナラサルヲ慮リ日本政府若クハ日本ノ或會社ニ訂約シ時機ノ見計ヒ起工セムコトヲ願フト

雖目下委曲ノ情節アリテ其ノ運ニ及ヒ難シ依テ良法ヲ案出シ可成速ニ訂約起工ノ運ニ至ルヲ要ス

一、京釜兩地及京仁兩地間ニ日本國政府ヨリ既ニ架設シタル軍用電信ハ時宜ヲ酌量シテ條款ヲ訂立シ以テ其ニ存留ヲ圖ルヘシ

一、將來兩國交際ヲ親密ニシ且貿易ヲ獎勵セムカ爲朝鮮政府ハ全羅道ノ沿岸ニ於テ一通商港ヲ開クヘシ

一、本年七月二十三日王宮附近ニ於テ起リタル兩國兵員偶爾衝突事件ハ彼此共ニ之ヲ追究セサルヘシ

朝鮮憲兵隊歴史

全6巻
ISBN4-8850-4548-3

表示価格は、全て税別

●体裁 A4判・上製本・4面付方式・総1、580頁

●内容 防衛庁防衛研究所図書館所蔵の「朝鮮憲兵の起源及び沿革概要」(別名「歴史別冊」1冊)「朝鮮憲兵隊歴史」(全11冊)を全6巻として復刻。

第1巻	解説/歴史別冊/明治29年2月~同41年12月	276頁	ISBN4-8850-4549-1
第2巻	明治42年1月~同43年12月	242頁	ISBN4-8850-4550-5
第3巻	明治44年1月~大正元年12月	252頁	ISBN4-8850-4551-3
第4巻	大正2年1月~同3年12月	314頁	ISBN4-8850-4552-1
第5巻	大正4年1月~同8年8月	246頁	ISBN4-8850-4553-X
第6巻	大正8年8月~昭和19年7月	250頁	ISBN4-8850-4554-8

●解説 松田利彦 (第1巻所収)

●定価 全6巻 揃本体価格 1,800,000円+税

2000年11月一括刊行

●関連資料のご紹介

〈十五年戦争極秘資料集 補巻7〉

韓国併合始末 関係資料

海野福寿 編・解説

BD判・2000頁・定価6,1000円+税 ISBN4-8850-1037-X

●新資料の発掘により、日本の韓国併合の実行過程を詳細に解説する。「対等の立場で締結された」という政治家の発言が、いかに事実とかけ離れているかを示す。

●原本II資料1・明治43年11月「朝鮮総督報告 韓国併合始末」31丁同附録参考「韓国併合ト軍事上ノ関係」8丁/資料2・明治44年8月「日韓併合始末」44頁・「日韓併合始末附録」30丁、地図・表多数

●内容——資料1「韓国併合始末」は、「韓国併合条約」調印後二カ月余を経た一九一〇年一月七日付で「朝鮮總督寺内正毅」が「内閣総理大臣桂太郎」に提出した、韓国併合の経過報告書。国立公文書館所蔵「明治四十三年公文雑纂卷十九」に綴じ込まれていたが、今日まであまり知られず、利用されてこなかった。

資料2『日韓併合始末』は「併合ノ一周年」にあたる一九一一年八月二十九日、竜山にいた陸軍騎兵大尉吉田源治郎の著作。防衛研究所蔵本を利用。

不二出版

〒113 東京都文京区向丘一-11-11
TEL 03-3811-4433
FAX 03-3811-4464
振替 001601194084